

4. 外部評価委員による評価

外部評価委員による評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会が点検及び評価を実施するにあたり、教育に関し学識を有するものの知見の活用を図ることが定められ、今年度は下記の方々より、この報告書に対する評価をいただきました。

外部評価委員（敬称略・50音順）

- 中野 克也 【元河内長野市立三日市小学校長】
水口 章憲 【河内長野市PTA連絡協議会 会長】
水谷 邦子 【東中学校区青少年健全育成会 相談役】

なお、今年度の評価については、「3. 教育、学びへの取り組みについて」に記載されている各重点目標の中でも、令和元年度において本市教育委員会で特に重点的な取組みをした事業や、新たに実施した事業にあたる「最重点項目」が含まれる重点目標についてのみ、評価をいただいております。

重点目標1 確かな学力の定着

（教育の現状掲載頁 P.23）

- ・学力向上のための柱を「言語の力の向上」、「教員の授業力の向上」、「学習集団作り」の三本としたことは学習指導要領に照らしても適切であり、河内長野の教育の特長として高く評価したい。その達成の手だてのひとつとして、例えば「言葉きらめきフェスティバル」を継続的に実施しているのだが、参加者数において、平成29年度は92名であるものの、平成30年度は54名、令和元年度は56名で市全体の児童生徒への広がりが見えない。この事業の実施までの取り組みのプロセスにひと工夫必要なのではないか。
- ・次年度の評価になるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止により学校園の休業日が増え、児童生徒の学校での学習機会が減少するが、学校の大きな役割である「集団の中での学び」に先生方のご尽力を期待する。
- ・『言葉きらめき Festival』のような、語学の必要性の認識や学習意欲の向上に繋がる催しを継続して実施して頂きたい。
- ・語学向上の基礎は、語彙力と考えます。単語の暗記など、生徒が億劫となるような学習のフォローを検討して頂きたい。
- ・まずは「予測できない変化に主体的に向き合い」の一文が今回は特に重く感じられる。コロナ禍の中で子どもたちの「確かな学力の定着」は、最も重要かつ困難な問題の一つであろう。「今後の課題及び次年度以降の取り組みについて」の欄に、それらに関する記載が欲しかった。
- ・同一中学校区内の小中学校間で連携を深められた点は評価できる。児童にとっての中学校生活や教員への不安の軽減になり、さらには落ち着いた学習環境につながると思われる。ただ、1つの中学校区内に複数の小学校がある場合、どの小学校にも平等に授業を行うためにどのような工夫がされたのか、逆に課題がなかったのか、あるいは1つの中学校区内に小学校1校である場合と同様の効果があったのかについて、少し触れてほしかった。

重点目標 8 英語教育や ICT 環境等を活用した特色ある活動の充実 (教育の現状掲載頁 P. 43)

- ・ 中学 3 年生に公費補助で英語検定を受験させる取り組みや、中学生に英検用練習問題を配付する取り組みは重点目標達成には有効であり、河内長野の教育の特長として高く評価したい。願わくは、英検 3 級に届かなかった生徒や、英語関係の諸事業に不参加の生徒の支援をお願いしたい。また、例えば児童生徒だけでなく保護者も一緒に検定を受けるというような、大人も子どもも参加することで、家族全体で広く英語を勉強しようという機運が広がるような施策の展開も、市教委全体で検討いただきたい。
- ・ 英語の授業といえば、声を出して英語をしゃべる英会話授業が大部分であるような印象がある。今後はそれと並行して、英語を使った対話や討論に重点を置いた授業を取り入れるなど、児童生徒の発達段階を考慮した取り組みについてもご検討いただきたい。
- ・ 市雇用の外国人英語指導員が実施する授業に日本人スタッフも参加して、理解の浅い生徒に対するフォローができる環境整備を検討して頂きたい。
- ・ 英語教育や ICT を活用した様々な取組みについて、広報活動に力を入れてその魅力を外部発信し、若年世代の本市への移住誘発に繋がるようにして頂きたい。
- ・ 令和 2 年度から実施される新学習指導要領に先立つ英語活動の実施には、様々な工夫がなされていると評価できる。特に 6 年生の「モバイル英語村」の実施で児童一人ひとりが対一のコミュニケーションをとれたことは、児童にとってその後の「英検」受験という具体的な目標につながるのではないだろうか。
- ・ 「今後の課題及び次年度以降の取り組みについて」の欄にある『書くこと』の活動に戸惑いを見せる児童が見かけられたから『話すこと』『聞くこと』を中心としたプログラムを提供」とあるが、英語教育において「書くこと」はどのような形で考えていくのかの記載が欲しかった。

重点目標 9 多文化共生への支援 (教育の現状掲載頁 P. 48)

- ・ 日常生活においても、毎朝最初に出会う人が外国人であることが珍しくない今日において、外国籍の人々との日常生活でのかかわりについて、互いを理解し合う場としての地域社会の見直しと、国際化社会に対応できる人材養成が極めて重要であると実感する。今後の施策として、いわゆるこれまでの国際交流とは異なる日常生活の場での交わりに重点を置く施策を望む。
- ・ 学校教育と連携し、国際理解教育を推進する K I F A 等の活動を評価したい。
- ・ 『河内長野市国際化・多文化共生ビジョン』を基に、滝畑周辺や岩湧山など河内長野市の観光資源を有効活用し、国際交流を図るための具体的な催しを検討して頂きたい。
- ・ 河内長野市外国籍市民数の変遷のグラフを大阪府に比較して見ると、ここ数年の増加で過去最高であること、また国籍が多様であることがわかる。子どもたちにとっても外国人は身近な存在となりつつある。小中学校だけでなく、市民を対象とした多文化共生講座などの多彩な事業の実施は評価できる。特に「世界ごった煮」は印象的なイベントと思える。

重点目標 10 歴史文化遺産の保存・継承と活用 (教育の現状掲載頁 P. 51)

- ・ たいへん充実した事業を展開していると評価したい。また、「日本遺産関連事業」は新規事業であり、歴史ファンの期待を集めるものである。コロナウイルス感染拡大の懸念もあるが、市民向けの講演会や体験事業など、さらなる創意工夫のある取り組みを期待する。
 - ・ 金剛寺等の歴史文化遺産を継続的に保存・継承するために、例えば民間企業とタイアップを図るなど、より広い視点で歴史文化遺産の広報活動を精査し、その中で実現可能な方法を検討して頂きたい。
- 歴史文化遺産は河内長野市にとって最も貴重な地域資源であるが、国指定・府指定・市指定文化財以外に

も多くの文化財が存在する。それらの文化財を子どもたちが身近な存在として感じたり関わることは、郷土愛となる。小学校への出前授業、子ども文化財解説、ふるさと歴史学習館における歴史体験教室など様々な事業の提供が評価できる。

・今回はコロナ禍で実施できなかった高校生や大学生のボランティア活動について、今後も引き続き実施してほしい。特に檜皮採取や茅場保全活動など、河内長野でなければできない事業には市内外からの参加を期待したい。

・滝畑ふるさと文化財の森センターの利用者について、市内利用者がやや少ないことが気になる。小学校などの校外学習などに活用できないだろうか。

・小学生向けの日本遺産紹介冊子の配布は、素早い対応が評価できる。

重点目標 15 子どもたちの放課後の育ちの保障

(教育の現状掲載頁 P.72)

・放課後児童会は、市全児童の25%近くが入会している。放課後児童会は、安心して働ける大人を支援するなど、社会経済を支える大切な取り組みであるとともに、「子どもを育てて大人にする」という教育の命題を担う観点で大変重要である。担当部局の取り組みを評価したい。

・放課後子ども教室は、毎回工夫を凝らした取り組みをされていると思う。学校と放課後子ども教室のスタッフがさらに密に連携し、より魅力のある教室を目指して頂きたい。

・児童各々の事情に対応できる様に、現活動の継続的な実施をお願いしたい。

・放課後児童会については待機児童ゼロや平日の時間延長、土曜・夏休みの開始時間を早めるなど、就労などの家庭事情の現状に対応した運営が評価できる。

・放課後児童会の児童数も以前に比べて多くなっているようだが、その変移や全児童に対する比率などの資料があれば、より放課後児童会の位置づけへの理解が深まったと思う。

重点目標 18 安全・安心な学校施設整備の維持・充実

(教育の現状掲載頁 P.80)

・小中学校の空調施設の整備が2年間で達成できているとともに、他の施設・設備も着実に整備されていることは大きく評価できる。子どもの安全・安心を担保する学校施設の維持・充実は学校教育のみならず、学社連携、地域社会の安全・安心に結びつくものである。もっと高い評価をされてもよいのではないかな。

・大型台風の発生頻度が増加し、大地震の発生も予想されている中、避難所ともなる学校や公民館等の公共施設の管理等にご尽力願う。

・「学校」という所は特別な場所である。子どもたちにとっても地域にとっても最も安全であらねばならない。施設の安全について計画的に取り組んでおられることがよくわかり、評価できる。また自然災害など不測の事態に対しても早急な対応がなされていることがわかる。

・全小学校全普通教室への空調設備が設置されていたことは、今回のコロナ禍の下では幸いであったと言えよう。今後の課題にもあるが、トイレの洋式化については早急な対応が必要と思われる。特に避難所になる体育館のトイレは高齢者の使用が予測できる。

重点目標 19 学校教育を支える教育環境の維持・充実

(教育の現状掲載頁 P.84)

・平成30年度の評価が妥当性A、効率性B、有効性Aであり、高く評価されていたが、同感である。令和元年度も小中学校の英語教育、ICT教育を支えたと十分に判断できるので、高い評価ができる。

・コロナ禍の長期化を見据えて、オンライン授業ができる環境整備を検討して頂きたい。

・統合型校務支援システムの校務電子化に係るより詳細なスケジュールや、先行校と後続校に区別する理

由を明確にしたうえで、計画通りスムーズに導入できるよう取り組んで頂きたい。

- ・教育情報ネットワークに関しては変化が大きいところである。パソコンのバージョンも短期間で変わっていく中で、平成 21 年導入の ICT 機器の更新が平成 30 年度になるなど、対応の速度の難しさを感じる。
- ・今回のコロナ問題では、パソコンやタブレットが家庭内で日常的に使用できる場合と用意が難しい場合の対応なども問題となり、今後の課題になっていると思われる。
- ・学校図書館蔵書管理システムにおいては、子どもたちが自ら検索や情報収集をすることにより、さらに知識欲を高めることが期待できる。また子どもたちの読書履歴からの情報は、よりきめ細やかな対応が可能となり評価できる。

重点目標 2 2 スポーツ施設の充実と生涯スポーツ活動の推進 (教育の現状掲載頁 P. 96)

- ・ここ数年来、市の施設を継続利用しているが、実感として利用者の減少は否めない。さらに、施設や設備の老朽化も目立っていて危険である。しかし一方で小学生対象の取り組みや学校開放、その他振興事業など工夫を凝らした事業は評価できる。今後はさらに高齢化が進むので、室内でのスポーツや障害のある人達も楽しめるスポーツなど、パラリンピックからヒントを得たスポーツの導入を検討されたい。
- ・幅広い世代の方々にスポーツに親しむことができる機会を確保し、スポーツ振興を図る様々な施策を実施している点が評価できる。
- ・スポーツ種目は多種多様となってきて、またその活動形態も多様である。できるだけ多くの市民がスポーツ活動に関わるような様々な事業展開は評価できる。また、スポーツを実際に行い体力向上や維持を期待することは大切であるが、それだけでなくプロスポーツの観戦などでスポーツを身近に感じること、楽しむ事業の実施も評価できる。
- ・河内長野シティマラソン事業は「継続事業」になっているが、大会運営改革の見通しについての記載が欲しかった。

重点目標 2 4 子どもたちや市民の読書活動の推進 (教育の現状掲載頁 P. 109)

- ・読書や日常の中でふとしたことで触れる文章は、子どもの成長にとってどれほど貴重なものかは言を俟たない。新型コロナの影響は子どもの読書に大きな影を落としている中、図書館が放課後児童会等へのパック貸し出しを行うなど、教育指導課など他の担当課の施策とも密接に結びついており、妥当性・効率性は高く評価できる。
- ・読書活動推進計画等の具体的な計画と実施や広報活動が評価できる。
- ・他市と小中学校の国語力比較を行い、成果の数値化と目標を設定することを検討して頂きたい。
- ・読書活動推進のための様々な取り組みがなされていることがよくわかる。子どもだけでなく「認知症にやさしい図書館」であり、障がい者に対しても「やさしい図書館」である。また「るーぷらざ」との連携により、ボランティア活動の情報提供の場となっていることは評価できる。
- ・「生活に役立つ図書館講座」や「図書館歴史講座」の開催など、図書館が市民にとって身近な文化施設であるための企画力を感じる。ボランティアの活躍の場が多く用意されていて、市民との協働という側面も評価できる。
- ・学校図書館との連携により、子どもたちがより多くの図書や資料に触れることができることも評価できる。ただ図書や資料だけでなく、図書館が企画した事業との連携も期待したい。

- ・図書館や公民館図書室の充実は、子どもたちの言語の力を向上させるだけでなく、広く市民の読書活動の推進に資するものであるから、評価の妥当性は高い評価としたい。
- ・放課後児童会への夏休みお楽しみパック（定期貸し出し）の充実を期待する。
- ・アンケート実施等により市民の意見が反映されていることに加えて、活動成果が数値化されている点が評価できる。
- ・各々の施設における催しを、総括的に広告する活動を検討して頂きたい。
- ・図書館においては紙媒体だけでなく電子媒体の情報も必要とされ、その取り組みがいろいろされていることがよくわかる。予約・リクエストサービスにおいてWeb予約が全体の三分の二、調査相談が延べ735件などからは、実際に図書館に来館した人が予約をしたり相談していると思われる。図書館での滞在時間は来館者によって様々であると思われるが、概ねゆったりとした時間を過ごせているのではないだろうか。コロナ問題下での図書館運営の必要性はもちろんだが、図書館が憩える場所でもあって欲しい。